

創刊号から「生」紙面デジタル化 ～毎日新聞原紙撮影データのご案内～

東京・大阪版
120万枚収録



デジタルアーカイブ化作業の様子

毎日新聞社知的財産ビジネス本部は、1872（明治5）年3月29日の東京日日新聞（毎日新聞の前身）創刊号から現在まで、5万4000号を超える154年分の新聞紙面を保管している。2016年から、この原紙を高画質カメラで撮影し、紙面データとしてデジタルアーカイブ化するプロジェクトを進めている。

現在までに、1872年から2004年1月までの東京本社版・大阪本社版の紙面約120万ページをデジタル化。原紙はハードカバーに製本され、室温22度以下・湿度55%以下に保たれた特別室に厳重に保管されているため、一旦製本を解体し、修復して製本し直す「解綴（かいてつ）・編綴（へんてつ）」を繰り返しながら、慎重に複写作業が行われている。

明治期以降の出来事鮮明に

原紙撮影されたデータの特徴は、紙面の再現性にある。従来の紙面データはコントラストが強く、写真が黒くつぶれて文字がにじんでいる部分もあった（＝画像右）。

一方、原紙撮影紙面データは「生の紙面」を高画質カメラで撮影しているため、紙面の黄ばみやインクの乗り具合、材質感などを忠実に写し取っている。これまでつぶれて判読が難しかった文字も鮮明に読み取ることができ、写真の階調も豊かに再現されている（＝画像左）。当時の紙面の雰囲気がそのまま伝わり、激動の近代が「生もの」のように迫ってくる貴重な歴史的資料だ。

原紙撮影紙面データ

従来のマイクロフィルムの紙面データ



－ 活用例 －

原紙撮影紙面データの特徴を生かし、東京都の「葛飾区郷土と天文の博物館」で5月から開催されている特別展「葛飾区大花菖蒲展」では明治時代の紙面が史料展示されている。

宮内庁所蔵の油絵「堀切菖蒲園」を描いた米国人画家セオドア・ウォレス氏が1887（明治20）年に東京で開催した油絵展について、当時の東京日日新聞は記事と広告を掲載。紙面データでは文字を鮮明に読み取ることができ、また新聞の質感も感じられるため、同館学芸員は「その時代の新聞をその時代の人と同じように読むことで、当時を体感できる。原紙撮影紙面データの展示にこだわってよかった」と話す。

葛飾区大花菖蒲展：第1期～7月12日、第2期7月25日～11月3日

毎日フォトバンクにて提供

原紙撮影紙面データは、法人向け写真データベース「毎日フォトバンク」を通じて提供している。紙面データは基本的に未公開だが、サイト内で一部紙面を閲覧可能。利用料金は用途によって異なるが、2カ月未満の展示や書籍の中面であれば¥15,000（税別）～。詳しくは「毎日フォトバンク」までお問い合わせを。

【原紙撮影紙面データ対象期間】

東京本社版：1872年創刊号～2004年1月31日 朝夕刊

大阪本社版：1943年1月～1991年3月31日 朝夕刊

【毎日フォトバンク】

毎日新聞社が所蔵する約900万点の写真から厳選した約140万点を公開・提供するデータベース。

※上記期間以外については、通常の紙面データを提供
※コンテンツに含まれる権利処理は利用者側にてお願いしております



サイト内で
一部紙面公開中

原紙撮影紙面データと従来のデータの比較

高精細の原紙撮影紙面データとマイクロフィルムから作製された従来の紙面データを見比べると、文字と写真に明確な違いが確認できる。

■ 文字が鮮明に判読できる

例：1945年9月29日東京朝刊1面 [天皇、マッカーサー連合国軍最高司令官と会談]

従来の紙面データ



原紙撮影紙面データ



■ 当時のカラー紙面も

例：1964年10月11日東京朝刊17面 [東京オリンピック特集 開会式]

従来の紙面データ



原紙撮影紙面データ

